

栗東市教育研究発表大会

令和6年2月15日(木)に、第21回栗東市教育研究発表大会を開催しました。

開会行事では、主催者を代表して、安土憲彦教育長から開会のあいさつがありました。教育長より、今年度の教育奨励事業において、多くの先生方からの教育実践が寄せられたことについて、各校園の保育教育に対する熱意や意欲への賞賛と激励がありました。そして、優秀賞とフレッシュ大賞の受賞者に賞状授与が行われました。



教育研究奨励論文発表

「人との関わりを通して、主体的に遊ぶ子どもの育成」
～おもしろそう・やってみよう・たのしいな～

<発表者> 治田西幼稚園 山本 陽子 教諭



【参加者からの声】

- ・ 一人一人の児童に丁寧に寄り添い、園の先生方全員の共通理解をもって工夫を凝らし進められていることが深く伝わってきました。
- ・ 職員の思いを確認した上で、学び(研究)の方向性を共通認識した園内研究はとても価値があると思いました。子ども同様、先生たち、個々も尊重されてこそチームで保育教育ができると思いました。
- ・ 研究実践に際して、職員・保育者一人一人の保育間の違いをまずは認め合うところからスタートされたことは素晴らしいと思います。保育者同士を認め合う雰囲気は、子どもを中心とした話し合いができ、モチベーションの向上とさらなる子ども(一人一人)理解につながると感じました。
- ・ 主体性という具体化が難しそうな内容に対して、様々なアプローチを試し、実践しておられるのが素晴らしいと思いました。特に保育者同士が思いをぶつけあうこと、それは保・幼だけでなく小・中など、どこでも大切だと思いました。
- ・ 幼児教育の研究発表は、講演テーマでもある非認知能力の育成とも深く関わり、市としての一貫した研究への取り組みの意気込みが感じられました。

教育研究奨励論文講評

<講師> 滋賀大学教職大学院 准教授 北村 拓也 氏



教育研究奨励論文の書き方や審査に関わっていただいた北村先生から、応募者全員への講評がありました。研究テーマや研究の視点、実践の分析や評価等、たいへん丁寧な講評と温かいお言葉で研究論文の価値付けをしていただきました。

「これからの時代に必要な『非認知能力』を育むために」

<講師> 岡山大学教育推進機構 准教授 中山 芳一 氏

本市が進めている「栗東子育て教育 Next プロジェクト」に関わって、昨年度に引き続き『非認知能力』についてご教示いただきました。

『非認知能力』とは、新しいことではなく、今まで「心」の教育として人格形成を助けてきた内面的なものであることや、また、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」の3つの力に分かれ、子ども自身が意識することや指導者が直接・間接に意識づけさせることで伸ばし、育むことができることを教えていただきました。

そのため、指導者の見とり(気づき・読み解き・意味づけ)や子どもの感情を動かす仕掛けが大切であることを学びました。中山先生の熱い語りに、参加者からポジティブな感想をたくさんいただきました。



【参加者からの声】

中山先生のお話は、非認知能力の定義を今一度、学び直すよい機会となりました。我々教師は、「心」の解像度を上げて、見取りの専門家として、子どもの変化や学びの姿をタイムリーに捉える力を身につけなくてはならないと改めて強く感じました。

非認知能力という言葉はよく聞きますが、実際に保育の中でどのように取り組んでいけばよいのか、まだまだ分かっていない部分も多いので、貴重なお話を聞かせていただき、学ぶことがたくさんありました。非認知能力の3つのグループを意識しながら、いままでも大切にしてきた子どもの心を育てていくことをこれからも考えていきたいです。そのためにも「子どもを見とる力」を高められるよう学びを続けていきたいと思います。

非認知能力は3グループに分けられ、教育目標などの具体的な姿におとしこむ際にも役立つとわかりました。プロセスを見取ることの大切さ、感情を動かすことの大切さがわかりました。ギミックブラッシュアップシートは大変使いやすいそうで、取り入れてみたいと思います。

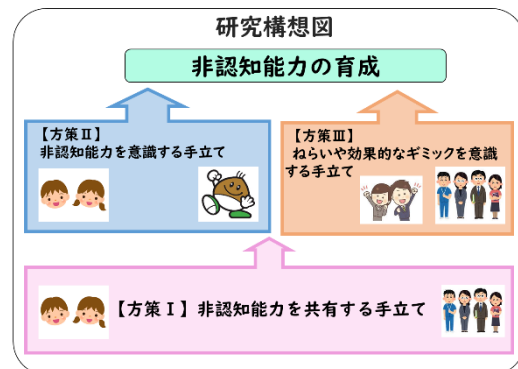


就学前の非認知能力のことだけでなく、小・中とつながっていることや、小・中でも非認知能力を大切に育むことが求められていることがわかりました。改めて、就学前に非認知能力をどのように育むのか、園の職員と共有し取り組んでいきたいと思いました。

今まで小学校が学校教育目標に掲げて来たことを具体的な姿に落とし込んで職員と子どもとで、意識して取り組んでいる今の状態を迷わず突き進んでいけば良いのだと改めて思いました。

【調査研究の報告】

本研究では、非認知能力に刺激を与えるためのギミック（仕掛け）を取り入れた指導実践を通して、非認知能力を育成するための効果的なギミックを明らかにすることを目的としています。一年次は、非認知能力の育成を目指す授業づくりのために、3つの方策を考えました（右図の研究構想図参照）。その方策について、研究協力校において実施・検証しました。

**方策Ⅰ：非認知能力を共有する手立て****1 方策の内容**

指導者や児童生徒が非認知能力について共有する手立てとして、オリエンテーションを実施しました。

2 結果および考察

非認知能力についてどのような力があるのか指導者の経験や感想等をふまえて伝えました。児童生徒の「非認知能力を伸ばしたい」という意識と、指導者の「非認知能力を意識した児童生徒の見取りを大切にしたい」という意識につなげることもできました。

方策Ⅱ：非認知能力を意識する手立て**1 方策の内容**

非認知能力の育成には、児童生徒が自ら意識することが重要です。そこで、くりちゃんを活用したアイコンを作成し、その効果について検証しました。

2 結果および考察

掲示されたアイコンを見ながら、本時で意識する非認知能力を児童生徒が自ら選び、最後に振り返りを行いました。その中には、選んだ非認知能力を伸ばそうと意識して行動した内容や、非認知能力を意識すると学習内容もわかりやすくなったという内容もみられました。アイコンが児童生徒の意識を高める手立てとして有効であったと考えます。

**方策Ⅲ：ねらいや効果的なギミックを意識する手立て****1 方策の内容**

ギミックブラッシュアップシートを活用した指導実践から、その効果について検証しました。

2 結果および考察

児童生徒の感情の動きを予想しながらギミックを取り入れた授業を考えられる点で、ギミックブラッシュアップシートが非認知能力を意識するツールとして有効であったと考えます。また、指導者の意欲や授業改善にもつながりました。

ギミックブラッシュアップシート				氏名
教科・学年 など				
単元				
本時の目標				
非認知能力	ギミック① (分～ 分)	ギミック② (分～ 分)	ギミック③ (分～ 分)	
ギミック	☐ 空間ギミック ☐ 教具ギミック ☐ 活動ギミック	☐ 空間ギミック ☐ 教具ギミック ☐ 活動ギミック	☐ 空間ギミック ☐ 教具ギミック ☐ 活動ギミック	
予想 する 姿				
イメージ 感情	開始		終了	

今後に向けて

非認知能力の育成には、児童生徒自らが非認知能力を意識することが欠かせません。今後は継続して意識できる取り組みや、ギミックを取り入れた授業づくりを通して指導者の資質能力の向上を目指していきたいものです。

また、学校全体として同じ方向を向き、教職員が一丸となって非認知能力育成に関する知識と理解を深め、共通した取り組みを進めていく必要があると考えます。

最後になりますが、研究協力校の先生方、研究協力員の皆さまの熱心なご指導と温かいご支援に感謝申しあげます。本当にありがとうございました。

※調査研究報告書は、奨励論文集にまとめられ、SharePoint のドキュメントやデスクネットの文書管理でご覧いただけます。（3月下旬）

教育研究奨励事業審査結果

学校園名	種別	氏 名	研 究 主 題	賞
治田保育園	共同研究	足立恵子 山根彩奈	身体を動かすことが大好きな子どもに育てよう ～健康な心としなやかな体づくりをめざして～	優秀賞
治田西幼稚園	共同研究	山本陽子	「人との関わりを通して、主体的に遊ぶ子どもの育成」 ～おもしろそう・やってみよう・たのしいな～	優秀賞
金勝小学校	個人	谷口卓真	書く力の向上を目指した教材・授業づくり ～非認知能力を土台とした学級経営を通して～	優秀賞
葉山小学校	個人	川尻歩野佳	「子どものやってみたい!」を大切にする 居心地のよい学級集団づくり ～学級活動を中心に、子どもどうしのつながりを育む～	フレッシュ 大賞
葉山東小学校	共同研究	神馬夕紀	つきたい力を明確にした授業づくりの在り方 ～校内研究の取り組みを軸にした授業改善を通して～	奨励賞
治田東小学校	個人	北中伸昂	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた体育科授業 ～マット運動でのグループ学習の実践を通して～	優秀賞
治田西小学校	個人	高橋秀仁	考動・協働・発信できる治西っ子の育成 ～「自分から考えて動く・力を合わせて活動する・ 考えを伝え合う」ことができる6年生を目指して～	奨励賞
大宝小学校	個人	安藤 唯	自己有用感の向上を目指す係活動 —ICTの活用や交流の場の工夫を通して—	奨励賞
大宝西小学校	個人	前川諒平	おもいやりの言葉が溢れ出すクラスを目指して ～自尊感情を育む取り組みを通して～	奨励賞
栗東中学校	個人	山田将也	「単元を貫く問い」の設定による確かな学力の向上	奨励賞
葉山中学校	個人	竹村亜美	「食の自立」の為の実践的な力の向上 ～食育における調理実習を通じた取り組み～	奨励賞
栗東西中学校	個人	久保瑞歩	古典作品を通じて「読み解く力」を育てる手法	奨励賞

来年度に向けて

教育研究奨励論文に応募されたこと、研修講座や研究大会に参加されたこと等、どれもが保育士・教職員としての資質向上につながることです。日々忙しい中での執筆であったと思いますが、研修・研究に取り組まれたことが、きっと皆さまのこれからの保育・教育活動にいかされると願っています。

来年度も、皆さんのニーズにお応えし、少しでも日々の保育・教育活動にいかしていただけるような内容で企画・運営をしていきます。来年度も、ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

来年度も
よろしくね!



栗東市立教育研究所 〒520-3088 栗東市安養寺一丁目13-33 栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149 E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp